

学校給食に関するアンケート (2011. 9実施)

福島県教職員組合教育文化部

(28/103:回収率27.1%)

1. 放射性物質との関係で、安全な食材の確保上、困難となることがありましたらご記入願います。

- 他県産で対応・台風等の影響による値上がりが心配。市としてどのように対応するか、保護者への対応を文書等で知らせてほしい。【福島】
- 価格が高価になる。突然の追加・変更・キャンセルができない（取り寄せのため）、品質が心配。子どもたちに地元産を嫌いになって欲しくないと思う。【福島】
- できるだけ県外産を使用しているが、当日になって、異なる産地の食材が納入されることがあります、頭が痛い。（おいしくない・値段が高い）【福島】
- 地元の食材が使えないのが残念。ナシ・リンゴは地元の農家から納品してもらっていたが、今年はできないので、農家に対して申し訳ない気持ち。【福島】
- 県内産野菜等のモニタリング結果が公表されているが、全品ではないこと、ND値の不明さ等あり、県外産を使用。市教委からの明確な指導なし。新米の不安【福島】
- 他県の食材を使用しているが、その食材が安全かどうか分からず。【福島】
- 県外産の食材中心のため、安価で新鮮な食材が使えない。長期的に考えて、給食費の予算（残金）が心配。【福島】
- 地元産の野菜の使用を控えている。【福島】
- 新米は放射能「0ゼロ」の米が使えるのか心配。【安達】
- 震災の影響で給食室が使用できず、給食は実施していない。【郡山】
- 出回っている食材は安全かもしれないが、全量検査でないと、公表している数値を鵜呑みにしてよいのか判断しかねる。安心のため、県内・近県・ホットスポットのものを使わないようにするとなると、業者の責任者とすぐ話ができる環境が大切だと思う。入札制度の難しさがある。【郡山】
- できるだけ安全な食材を提供したい。【郡山】
- 特に野菜については、そのものの安全性が確実ではない（政府や県は安全を確認していると言っていますが）ため、「安心」はなおのこと得られず、保護者からは不安の声が寄せられます。（食材の）発注については大変難しく感じています。【岩瀬】
- 県食材を使った加工品をメーカーで生産しなくなり、22年度産の原材料を使用している時期でも、県産品を使えなくなってしまった。【岩瀬】
- 放射線量の測定器が学校にはないので、実際の線量がわからない。出荷されているものは、本当に安全なのか確認することができないので不安である。【岩瀬】
- 1学期中は地場産物を使用しなかった。【西白】
- 県内の野菜について、安全なのはわかるが、安心だとは言えないで使用を控えているが、業者によっては、県内の野菜や果物を納めてくる。納めないでくださいとは言えないので、不安がゼロではない状態で使用している。人手があれば、使用食材のモニタリング検査結果等を詳しく調べていたが、一人だとそこまで手がまわらない。
【石川】
- 納入される食材が本当に安全であるか確認できない。【石川】
- 地場産野菜を使用する際に、農林事務所のモニタリングをしているとの説明を受けているが、ピンポイント調査なので実際に使用している食材が安全かどうかが心配である。【東白】
- 生産地の市町村確認がむずかしい時がある。【相馬】
- 市場に出回っている食材は、安全だと認識したい。野菜はよいが、牛肉の件は、後の知らせだったので残念だった。【北会】
- 信用の問題ですが、産地表示など偽りのないこと。【北会】

2. 原発事故以前と調理方法やメニュー等で変わっている点があればご記入願います。

- 冷凍野菜の使用が多くなった。地元産果物の使用ができない【伊達】
- 食材の仕入れ先を市内から県外産へ変更。食物繊維がしっかりとれる献立をとりいれるようしている。【福島】
- 調理方法は変わっていないが、地場産物の果物の使用がなくなった。【福島】
- 洗浄を3回から4回にしたいが施設に限りがありできない。地産地消は休んでいる。
【福島】
- 事故後、緑黄色野菜、アブラナ科の野菜は極力控えてきた。今、少しずつ使い始めている。地元産で旬のものを使っていたが、それができない。【福島】
- 福島県産の食材を使用しないようにする。【福島】
- 冷凍野菜を多く利用している。【福島】
- 食材はすべて県外産になった。郷土食の献立ができない。【安達】
- 木になる物の使用を考慮【郡山】
- 安全性を確認して使用中。余震を考えて揚げ物の回数を減らす。【郡山】
- 誤解を受ける可能性のある物（報道で取り上げられた食材等）は出さない。【岩瀬】
- 海草類などなるべく多く出すよう心がけている。【岩瀬】
- 牛肉は使用しなくなった。【西白】
- 魚類を避けている。【石川】
- 牛肉は使用しないようにしている。【石川】
- 洗浄回数を3回から4回に増やしている。あえものや汁もの用の野菜（葉物）はゆでこぼしをしている。【東白】
- きのこ・栗等、季節を感じる食材の使用ができなくなった。季節感のあるメニューが減った。【東白】
- 牛肉使用は控えているので、牛丼・ビビンバ・チンジャオロースはすべて豚肉使用へ。
【北会】
- 牛肉の使用は控える。【北会】
- 牛肉の使用は控えている。【北会】

3. 福島県産牛乳の問題が1学期に表面化しましたが、何らかの手立てを講じていればご記入願います。

- 牛乳は止めず、飲まないことを認める形にしている。停止していないので、返金はない。【福島】
- 問い合わせがあった場合には「安全なものです」と説明している。それでも毎日1割弱の残り本数が出る。保護者の不安が浮き彫りになっている。【福島】
- 周りを刺激するなどのこと。停止したい人は止めている。【福島】
- 保護者から問い合わせがあった場合、給食で出している牛乳は安全であることを話した。【福島】

- 4月11日から給食開始（岩手県産）、4月28日飲用分から県内産になった。28日分から牛乳停止の申し出があり、6～7月にかけて増加。当初、検査結果が明確ではなかったので、申し出があった分は停止し、1学期中に返金。【福島】
6月中旬に原乳についての検査結果が明確となり、NDの値も分かったため、2学期からは停止措置は中止。保護者へは返金時に説明し、それでも飲ませたくない場合は、教室で処分している。【福島】
- 牛乳の話をしない。手だけでは講じていない。【福島】
- 返金や牛乳停止はしていないが、保護者の考え方で子どもに飲ませないでほしいと連絡があった場合は学級で飲ませないようにしている。【福島】
- 牛乳欠食者を受け付けている。【福島】
- 毎週1回の定期的な検査結果を表示。学級訪問時に話すようにしている。【安達】
- 牛乳を止めたい子どものものを停止している。【郡山】
- 希望する家庭では停止。【郡山】
- 安全であるということは伝えているが、それでも停止したいという家庭に対しては停止し、返金している。【郡山】
- 県・市の通達により対応した。【岩瀬】
- 毎日、県や厚労省のHPでモニタリング調査結果を確認し、放射線量をチェックしている。【岩瀬】
- 福島県産牛乳が不安な子どものみ、牛乳を停止している。【岩瀬】
- 牛乳を心配で飲めない子どもには（保護者からの申し出により）牛乳を止めている子もいる。
他県産の牛乳や麦茶などを持ってくる子もいる。【岩瀬】
- 製造元、福島県のHPの確認。【石川】
- 特になし。1名だけ牛乳飲用不可の子どもがいる。【東白】
- 停止するしかないので、申し出の子どもは、牛乳のみ飲まず、家から飲み物持参。
【北会】
- 放射能不安から飲用したくないという家庭には、停止している。【北会】
- 現在、保護者の中に1名、牛乳停止希望者がいるのでその子だけ停止。理由は鼻血が5月頃から出やすくなつたためとのこと。業者を呼んで資料をもらい、説明をして納得された様子であったが、現在も停止している。【北会】

4. 給食をめぐる保護者への対応で、工夫されていること、お困りのことがあればご記入願います。

- 弁当持参の選択もある。牛乳は、牛乳アレルギー以外の欠食は認めていないが、校長判断で、それもあり、となっている。【福島】
- 教頭が対応し、一本化している。【福島】
- 電話による対応は教頭が窓口。栄養教職員が直接対応することはない。地教委からのきちんとした指示がないのが一番困っている。【福島】
- 給食便りで、給食は安全であると示して良いのか悩む【福島】
- 管理職が対応している。【福島】
- その月に使う野菜・果物を予めプリントに印刷して配布している。【福島】
- 給食で使用している食材は出荷制限対象外のものを使用し、県産食材の使用停止を保護者へ通知した。【福島】
- 事前に産地予定表を出している。【福島】

- 食教育の講話の際に、安全・安心な給食作りを心がけていることを話している。【安達】
- 保護者もどれが正しくてどれが違うのかはっきりしていない。気持ちもすっきりしていない。せめて問い合わせがあれば、できるだけていねいに対応しているところである。【郡山】
- 県のHPをチェックし、必要な情報（出荷制限等）についてはプリントアウトしておいて、要望がある場合は、それをもとにできる限り答えていた。【岩瀬】
- 2学期から、週1回程度、使用食材の産地と、一人あたりの計算上の使用量をまとめて通知している。（幼稚園・小学校・中学校の3種類）【岩瀬】
- 「子どもの身体に放射性物質が蓄積しないよう、できるだけ安全な食材を確保して、給食を作っています」ということしか言えない状況であること。これがいつまで続くのか困っている。【岩瀬】
- 保護者からの問い合わせがあれば答えられる範囲で対応。保護者によりどの程度ならば安心なのか個人差があり難しい。【岩瀬】
- 放射能検査の結果を知らせている【西白】
- 食材の産地情報等をおたよりに記載。【石川】
- 給食便りに「安全な食材を選定して使用しています」と4・5月に記載。保護者の考えは様々で、県内産は使用しないでほしい、産地を明らかにしてほしいなど考えている。【石川】
- 給食便りで対応を説明。町の広報や新聞等に町長・副町長・教育長が給食を試食している記事を載せて安全性をアピールした。【東白】
- 試食会で現状説明。給食便り等でお知らせ。【北会】
- 市として食材・産地の公表をする（HP）。学校便り・給食便りで食材の説明。保護者説明会を開催した。【北会】
- 給食便り等で、給食について行っていることを知らせ、相談や疑問があれば連絡をするよう声をかけている（試食会や保護者対象の講話等の場面で）。【北会】

5. 学校給食と放射能、食の安全、原発事故後の困難、今後の要望・不安等、何でもご記入願います。

- 地産地消を進めてきた学校給食、それに応えるように農家の人たちの協力を得ていた。それらの関係が壊れないよう推進するための手立てや保護者への対応を知りたい。【伊達】
- 市内のおいしいくだものや野菜を子どもたちに提供できること。今後のお米でも、牛乳同様に保護者の方はかなり不安に思っているようである。食教育でも地産地消など言える訳もなく困っている。一刻も早い原発事故の収束を願うばかりである。お米については、市町村の考え方があると思いますが「給食で使うから安全だ！」というPRに学校給食を利用するはどうなのか！！もっと違うやり方があるはず。【福島】
- 県外産（ならOKなの？）・県内産（だから△？）で安全性の基準がいまいちわかりません。安全と安心、どうしたら両方得られるでしょう？【福島】
- 今年だけに限らず、今後ずっと対応し続けていかなくてはならないことなので、ガイドライン（指針）を決めて、職務にあたれるようにお願いしたい。保護者へはそれを基に対応することによって不安の解消となるのではないか。子どもが直接口にする給食ですので、栄養士はさらに神経をすり減らして日々業務を行っています。これ以上の精神的・業務増加による肉体的負担を強いることがないようにお願いしたい。【福島】
- 放射能の専門機関を信じて業務を行うしかありません。安全か安全でないか個人の判断はできません。【福島】

- 誰しも初めての経験で困惑があります。しかし教育委員会では具体的指導、責任の所在をはっきりさせない傾向があります。市内は学校により給食への対応がそれぞれ違っているのはそのせいです。同じ自治体の下、対処の仕方が異なるのはおかしい。給食一人分の放射性物質を正確に測定するため、ゲルマニウム測定器の購入が必要で、保護者にも安心してもらいたい。【福島】
- いつまでこの状況が続くのか、食品の放射能を測るとしたら、どのような勤務をしていけばよいか分からない。【福島】
- 今まで地産地消を謳つてきたのに、地元食材が一番信頼されない状態になっている。全ての保護者が給食に不安を抱いているわけではないと思うが、今年だけではなく、年単位で継続していく問題のため、国・県・市町村としての方針を文書で説明してほしい。【福島】
- 放射能測定器は、どのように使い、誰が測るのだろうか。【福島】
- 現在の給食費で今年度マイナス決算にしたくない。しかし、県外産使用のために困難かもしれない。【安達】
- いつまで放射能の問題が続くのか。地場産以外の米を使用したいが、どうなるのか不安。県外の牛乳を使用したい。【郡山】
- 安心して食べられる給食をはやく出したい。県内産・近県のものというだけで嫌がる人は多いと思う。これから新米の時期がきて、震災前のものが底をついてくることが不安。上からの決定は早くしてほしい。任せてもらえることは任せてほしい。
【郡山】
- なに分にも原発事故が収束しないことには不安はなくならない。また、保護者を含め、関わっている人々の思いや考えがたくさんの情報の中でゆれ動いている。何を以て安全とするのか、誰もが思っていることであるが、はっきり言える人はいない。だから不安である。【郡山】
- 野菜等の生鮮食品については、今後の土壌・海の状況が先行き不透明であり、今年だけの問題ではないので、学校給食全般について不安を感じています。【岩瀬】
- 「子どもはできるだけ被曝量を低くした方がよい」と言われているが、具体的な数値がない中、どんどん厳しい基準を設定している市町村があり、県が行っているモニタリング調査との整合性をどうとらえてよいかわからない。「市場に出回っているものは安全」という立場で県内産を使っているが、500ベクレル以下の基準であれば大人も子どもも本当にOKなのか。常に不安を持ちながら仕事をしている。地域には梨やキュウリなどの農産物を生産している子どもの家庭が少なくない。「安全」といわれているものを出荷しているのだから、それを使わないのは、その子の気持ちを大きく傷つけていることになると思う。食べ続けることで農業が繋がっていくことだと思う。給食で使わなければ、風評被害は減っていかない。このままでは子どもたちのふるさとである福島の農業が無くなってしまう。【岩瀬】
- 食材の安全性を考えると、県内産の使用を控えた方が良いと思うが、今まで進めてきた「地産地消」ができないこと、風評被害を拡大することにつながることなど、これでよいのかと思うことが出てきて不安である。【岩瀬】
- これから米の収穫時期が近づいている。給食での米を心配する保護者がいるので、新米ができたらどうなるのか心配である【岩瀬】
- 比較的放射線量が低い地域のため、あまり深刻な雰囲気は感じられない。【西白】
- 何が安全で、何が安全でないのか、報道等は気にしているが、何を信じてよいのか。
【石川】
- 子どもたちの将来を考えるとこのまま給食を続けて良いのかと不安になる。【石川】

- 今後、どのように食材を決定していけばよいのかとても悩む。福島県産を積極的に使用した方がよいのか、それとも避けた方がよいのか…。内部被曝を考えるととても悩む。土壤汚染はいつまで続き、福島県の農産物は、今後大丈夫なのだろうか？地産地消は今後も今までのようにできるだろうか。不安でいっぱいである。【石川】
- 最近、放射線量の変動があったり、ホットスポットの情報があつたりと不安材料は尽きません。みんなが望んでいるように早期の収束を願っている。【東白】
- 原発事故後、学校も保護者も不安な思いは在ると思うが、給食の安全を信じて食べてくださっている。それに応えるためにも正しい情報がほしい。【東白】
- これから新米がどうなるかが心配。地産地消の推進は？500ベクレル以下であっても0ではないので、△△ベクレルと表示なり、お知らせなりしてほしい。0に限りなく近い食材を使用したい。【北会】
- 原発の今後の行方や事故後にさかのぼって、セシウムや放射線量について知らされ、後戻りできない焦りがある。食という口に入る物を扱うには、それについての情報をつかみたいので、文科省、県、市町村の対応をはっきり示してほしい。【北会】

学校給食センターだより

平成23年11月1日

白河市学校給食センター



中学校の文化祭も終わり、秋も少し寂しくなってきました。食欲の秋です。給食センターでは、安心とおいしさを提供できたらと思いながら過ごしています。

学校給食用パン品質調査会がありました。

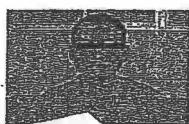


9月30日（金）に、学校給食用パンの品質調査の審査をして参りました。

10月21日（金）には学校給食用パン品質調査協議会で、福島県内の結果を協議しました。

白河市学校給食センターでお世話になっているパン屋さんは「優」の最高レベルのパンでした。パンの製造過程は、気候の変化に左右されやすく、また工程一つ一つが化学的で、繊細なお仕事だと知りました。

白河の秋の味覚しからしあしよう。



地区の~~白河~~さん
のねぎです。
太くて甘いねぎです。

地区の~~白河~~さん
の巨峰です。
とても甘いです。

地区の~~白河~~さんの
なし(二十世紀)です。大きく
甘くなりました。

食品放射能測定システムで食材を検査し、放射性セシウムは検出されていません。

10月使用した地元の食材は、

食品名	産地	使用日	1人当たり使用量
バセリ	泉崎村	10月4日	0.3g
きゅうり	中島村	10月6・7・18・20日	5g
ねぎ	白河市鹿島	10月5・14・17日	5g
なし(二十世紀)	白河市本沼	10月18日	40g
ぶどう(巨峰)	白河市関辺	10月20日	20g

11月1日～7日は
「朝食を見直そう週間」
です。いつもより少しだけ、
朝食を意識して過ごしては
いかがでしょうか！？

